

# 地盤工学会創立 70 周年記念

## 第28回調査・設計・施工技術報告会



主 催：公益社団法人 地盤工学会中部支部  
共 催：一般社団法人 中部地質調査業協会  
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中部支部  
後 援：一般社団法人 日本建設業連合会中部支部  
一般社団法人 日本応用地質学会中部支部

第 28 回調査・設計・施工技術報告会を下記のとおり開催いたします。今回の報告会では、地盤工学会創立 70 周年を記念した特別企画といたしまして、午前中には、共催、後援団体からの推薦者による講演 5 件と、午後には、3 件の特別講演会を開催いたします。特別講演には海洋研究開発機構理事、愛知県治水防災対策監、地盤工学会会長の皆様にご講演いただきます。

職場の皆様でお誘いあわせの上、奮ってご参加ください。なお、今年度から支部独自の特別会員に対する特典として、【同行者無料】特典を試行します。詳しくは、支部 HP (<http://jgs-chubu.org/tokuten/>) をご覧ください。

CPD ポイント : 6.0

地盤工学会以外の建設系 CPD 協議会加盟の団体所属の方で受講証明書が必要な場合は  
[http://www.cpd-ccesa.org/unit\\_assent.php](http://www.cpd-ccesa.org/unit_assent.php)

よりダウンロードし、必要事項をご記入の上、当日ご持参ください。

開 催 日 : 平成 31 年 6 月 21 日 (金)

会 場 : 名古屋大学 ES 総合館 1 階 ES ホール

(名古屋市千種区不老町：地下鉄名城線「名古屋大学」徒歩 2 分)

参 加 費 : 会員 3,000 円 非会員 6,000 円 学生会員 1,000 円 共催団体 3,000 円

シニア会員\*2,000 円 (消費税込み)

※シニア会員とは 61 歳以上の個人会員を指す中部支部独自の呼称です。

懇親会参加費 : 4,000 円

### プログラム :

9:30~ 9:40 開会挨拶：地盤工学会中部支部 支部長 豊田 正博

9:40~11:45 招待発表

「南海トラフ巨大地震等による沖積平野・堆積盆地において考慮すべき地盤工学的課題について」  
名古屋大学 野田 利弘 氏 (地盤工学会中部支部)

「断層破砕帯を横過する橋梁の橋梁計画 三遠南信自動車 8 号橋」

(株)オリエンタルコンサルタンツ 篠原 一輝 氏 (建設コンサルタンツ協会中部支部)

「地質リスク調査検討業務 ～一気通貫の地質リスクマネジメント～」

基礎地盤コンサルタンツ(株) 中本 英樹 氏 (中部地質調査業協会)

「UAV (ドローン) 空中電磁探査によるトンネル地山評価」

応用地質(株) 林 浩幸 氏 (日本応用地質学会中部支部)

「IoTによる重機土工の全行程見える化」

(株)フジタ 榎本 正樹 氏 (日本建設業連合会中部支部)

11:45～13:00 昼休み

13:00～14:40 特別講演 I

「海と社会の関わり」

国立研究開発法人海洋研究開発機構 理事 阪口 秀 氏

14:40～14:50 休憩

14:50～15:50 特別講演 II

「水防災意識社会の再構築と愛知県の水防災対策」

愛知県建設局 治水防災対策監 高橋 裕輔 氏

15:50～16:50 特別講演 III (講演・質疑込み 60 分)

「地盤工学、発想の転換」

地盤工学会 会長・熊本大学 副学長 大谷 順 氏

16:50～17:00 閉会挨拶：建設コンサルタンツ協会中部支部 支部長 上田 直和

17:20～ 懇親会：名古屋大学 ES 総合館 1 階 フレンチレストラン シェ ジロー

**申込方法**：支部ホームページ (<http://www.jgs-chubu.org/>) からお願いいたします。

**問合せ先**：公益社団法人 地盤工学会中部支部

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目 9 番 26 号ポーラビル 8F

電話 052-222-3747 FAX 052-222-3773 E-mail jibanchu@jeans.ocn.ne.jp

※ 会場へは公共交通機関をご利用ください。

※ プログラム等若干の変更がある場合がございます。支部ホームページにて最新版をご確認下さい。

(<http://www.jgs-chubu.org/>)

#### 特別講演 I の概要

### 「海と社会の関わり」

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 理事 阪口 秀 氏

内容：我が国は、地球全体の陸面積の僅か 0.27%の国土に世界人口の 1.4%も抱えている一方で、排他的経済水域 (EEZ)は地球全体の海の 1.2%を占めています。EEZ は海面から海底だけでなく海底下の地下空間も含まれます。すると、江戸時代末期までに陸上の資源を採り尽くした我が国をより豊かにし外貨獲得を目指すならば、今後は、水産資源のみならず、様々な資源を海に探し求める必要があります。また、島国である我が国は、隣国との境界が全て海にあるために、他国との間での人と物資そして情報の行き来は、必ず海を渡らないとなりません。加えて、台風、津波等の大規模自然災害もその起源は海と海底にあります。さらに海には、二酸化炭素を始めとする様々な物質や熱を吸収・放出する能力があり、地球全体の環境変動を支配していて、我が国の気象、気候に大きな影響を与えているのです。

にもかかわらず、日本列島狭しといえども海は海岸線にしか見えず、我々の社会は海とかけ離れたところにあることが多いため、その関りについてあまり知られていません。そこで、本講演では、海と社会の関わりについて会場の皆様と一緒に少し掘り下げて考え、JAMSTEC の活動を紹介しつつ、今後、我が国が取り組むべき海の課題について幾つかの提案をさせていただきます。